

(様式 1)

令和 2 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立文花中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 第 1 学年はすべての教科で全国平均正答率を上回っていた。・ 第 2 学年は国語において、全国平均正答率を 0.5 ポイント上回った。・ 第 2 学年の数学、理科、第 3 学年の数学、社会は前年度の校内平均正答率より上がった。・ 第 2 学年、第 3 学年は全国平均正答率との差が -10 ポイントの観点が一昨年度 22、昨年度 10、今年度 1 へと減った。	<ul style="list-style-type: none">・ 第 2、3 学年は理科が悪く、すべての観点で、全国平均正答率を 5 ポイント以上下回ってしまった。・ 経年比較において正答率が第 2 学年では社会、第 3 学年で国語、英語が 1.1 ポイントから 3.7 ポイント下がってしまった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ i チェックにおける「肯定値」は第 1 学年がほとんどの項目で全国を上回っていた。・ 第 2、3 学年は「学級環境」で高い数値を示している。	<ul style="list-style-type: none">・ 第 1 学年は「充実感と向上心」「感動体験」「他者からの評価」が低かった。・ 第 2、3 学年は「学級環境」の「学級の絆」が低かった。・ いろいろな行事が制限されている中の影響とみられるので、体験活動の実施が課題である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 漢字、計算、英語コンテストが定着し、漢字コンテストでは合格率が 90%を超えていた。「やればできる」を実感できた。・ 校内研修の充実。年 2 回の校内研修授業や年 2 回の授業観察期間、さらには i チェックの分析や学習意欲を高める研修を行うなど、学力向上マネジメント推進校としての取り組みを行っている。	<ul style="list-style-type: none">・ 放課後補習教室への受講者数や家庭学習サービスのラインズ e ライブラリアドバンスの利用率、さらには長期休業中の自主課題の作文コンテストの参加率など、自主的な学習が不足している。・ 家庭学習確認テストの合格率が低い。・ 各検定への受験率が低い。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 全校体制での校内研修の充実と授業力の向上を目指す取り組みを行う。

- ・年1回の研究授業、年3回の授業観察週間を充実させ、学力向上マネジメント兼研究推進委員会を中心に、本校で作成した「分かる授業」「学力が向上する授業」の実践集を活用し、墨田区学習状況調査の結果の各階層に合わせた取組事例の共有を図り、全ての教科で活かせるようにする。
- ・毎時間の授業で、単元の目標を踏まえた本時のめあてを明確にし、「ふりかえりシート」等で一単位時間内のまとめを確実に実施する授業を展開することで、学習スタイルを確立し、学習内容を「できる」「分かる」ようにして記憶の定着、学習意欲の向上につなげる。
- ・授業規律を高めるためにも、授業時の約束事を文中 Challenge&Change（文中 CC）として掲示し徹底を図る。

(2) 「学力向上マネジメント推進校」として、学習意欲を育む取組を行う。

- ・墨田区学習状況調査および i チェックの結果の検討・分析を校内研修で行い、生徒の実態を踏まえた指導の充実を目指す。
- ・学力マネジメント推進校として、自己肯定感を高める授業の改善シートを活用し、自ら進んで学びに向かう力を養う。
- ・教育活動全体を通してチーム文花中としての意識を高め、一日の様子を振り返る発表活動を通して、他者受容感や自己肯定感、自己効力感の向上を図り「やればできる」生徒を育成する。
- ・朝読書・朝学習の取組の徹底と各種検定の合格者を増やし学習意欲の向上に役立てる。

(3) 補習学習や家庭学習の必要性や重要性を意識させる取組を行う。

- ・放課後学習教室や家庭学習の取組を、放課後学習委員会を中心に計画を立て、実施する。
- ・各教科で「ふりかえりシート」等の学習内容を定着させる教材を有効活用し、必ず繰り返し学習を実施する。
- ・学習の仕方の分からない生徒に、放課後学習教室等で、SSTからもしっかりとアドバイスをもらい、補習学習に積極的に取り組ませる。
- ・各学年、家庭学習ノートを活用するため、単元テストや小テスト行う機会を短いサイクルの中で計画的に設け、テストの範囲を家庭学習と連動させ、家庭学習の充実を図る。
- ・基礎学力コンテスト前は、出題される問題を「ホームワークマラソン」として配布し、繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・墨田区学習状況調査において、全観点の平均正答率を全国との差が-5ポイント以内にする。
- ・全教科のD・E層の割合が5割以下にし、C層、B層の中間層も伸ばせる指導を行う。
- ・同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。